法相宗大本山 興福寺

Head Temple of the Hossō School
KOHFUKUJI

興福寺境内案内図

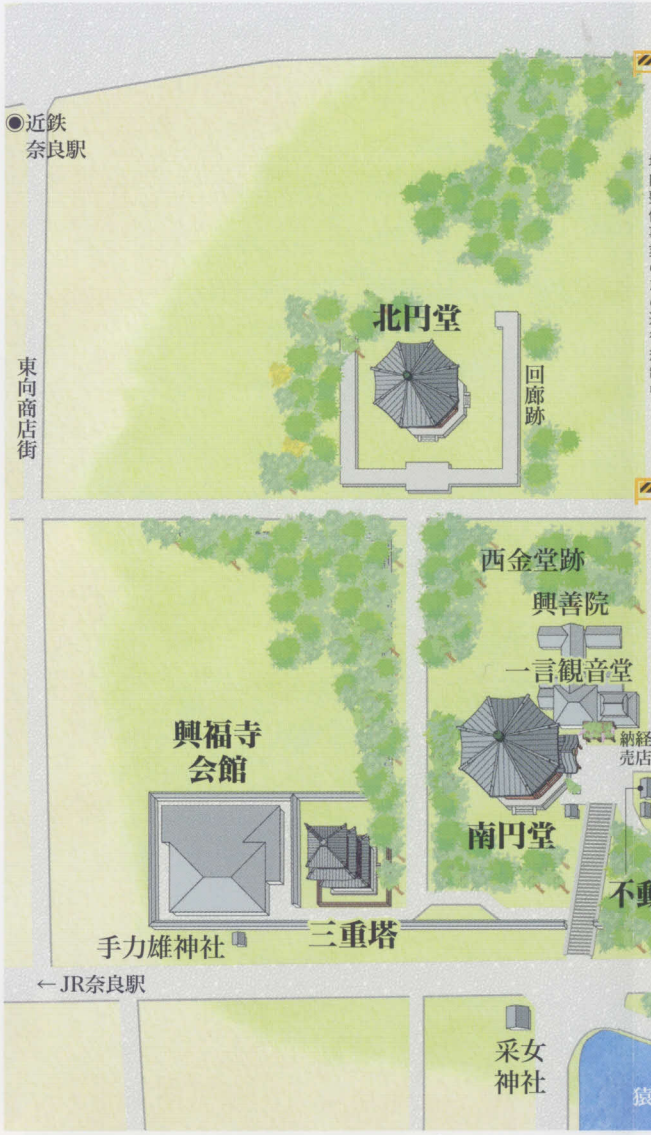
中金堂 平成30年(2018)10月落慶

中金堂は藤原不比等(ふひと)により創建され、その規模は当時の奈良朝寺院の中でも第一級でした。6回の焼失・再建の後、享保2年(1717)に焼失、文政2年(1819)に「仮堂」として再建されましたが、老朽化のため平成12年(2000)に解体し、伽藍の中核で最も重要な建物を創建当初の姿に復元するために、基壇の全面発掘調査をはじめ、歴史資料の研究成果等を取り入れ、天平様式の中金堂が復元されました。日本の伝統的木工技術を駆使し、奈良時代の建築様式を踏襲した建造物でもあり、これほど大規模な木造の建造物は今後更に難しくなるとされています。平城遷都1300年を迎えた古都奈良の新たな象徴となり、かつ後世に伝える文化遺産となります。

● 木造 釈迦如来坐像　●〈重文〉木造 薬王菩薩・薬上菩薩立像　●〈国宝〉木造 四天王立像　●〈重文〉厨子入り 木造 吉祥天倚像　●〈重文〉木造 大黒天立像

拝観時間：9時～17時／無休

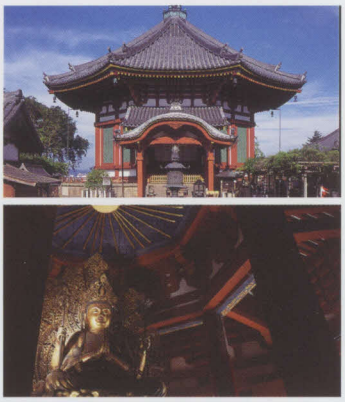
拝観料金：大人500円／中高生300円／小学生100円　※共通券はありません。



三重塔 国宝

康治2年(1143)、崇徳天皇の中宮皇嘉門院聖子(こうかもんいんきよこ)が建立。治承4年(1180)の焼失後、再建。塔高19m、北円堂とともに寺内最古の建物。軽やかで優美な輪郭が特徴。初層内部に千体仏が描かれ、東の須弥壇に弁才天坐像と十五童子像を安置します。

7/7(弁才天供)のみ開扉



南円堂 重要文化財

藤原冬嗣(ふゆつぐ)が父内麻呂(うちまろ)追善のため弘仁4年(813)に創建。寛政元年(1789)、4度目の再建。西国三十三所第九番札所で日々参拝が多い。

●〈国宝〉木造 不空羂索観音菩薩坐像
●〈国宝〉木造 四天王立像
●〈国宝〉木造 法相六祖坐像

10/17(大般若経転読会)のみ開扉

不動堂

毎月/1、15、28：護摩祈祷

北円堂 国宝

興福寺を創建し、平城京造営を推進した藤原不比等の一周忌にあたる養老5年(721)、平城京を一望に見渡す最良の地に創建。治承4年(1180)の被災後、承元4年(1210)頃に再建。日本に現存する八角円堂のうち、最も美しいとされています。

●〈国宝〉木造 弥勒如来坐像
●〈国宝〉木造 無著・世親菩薩立像
●〈国宝〉木心乾漆造 四天王立像

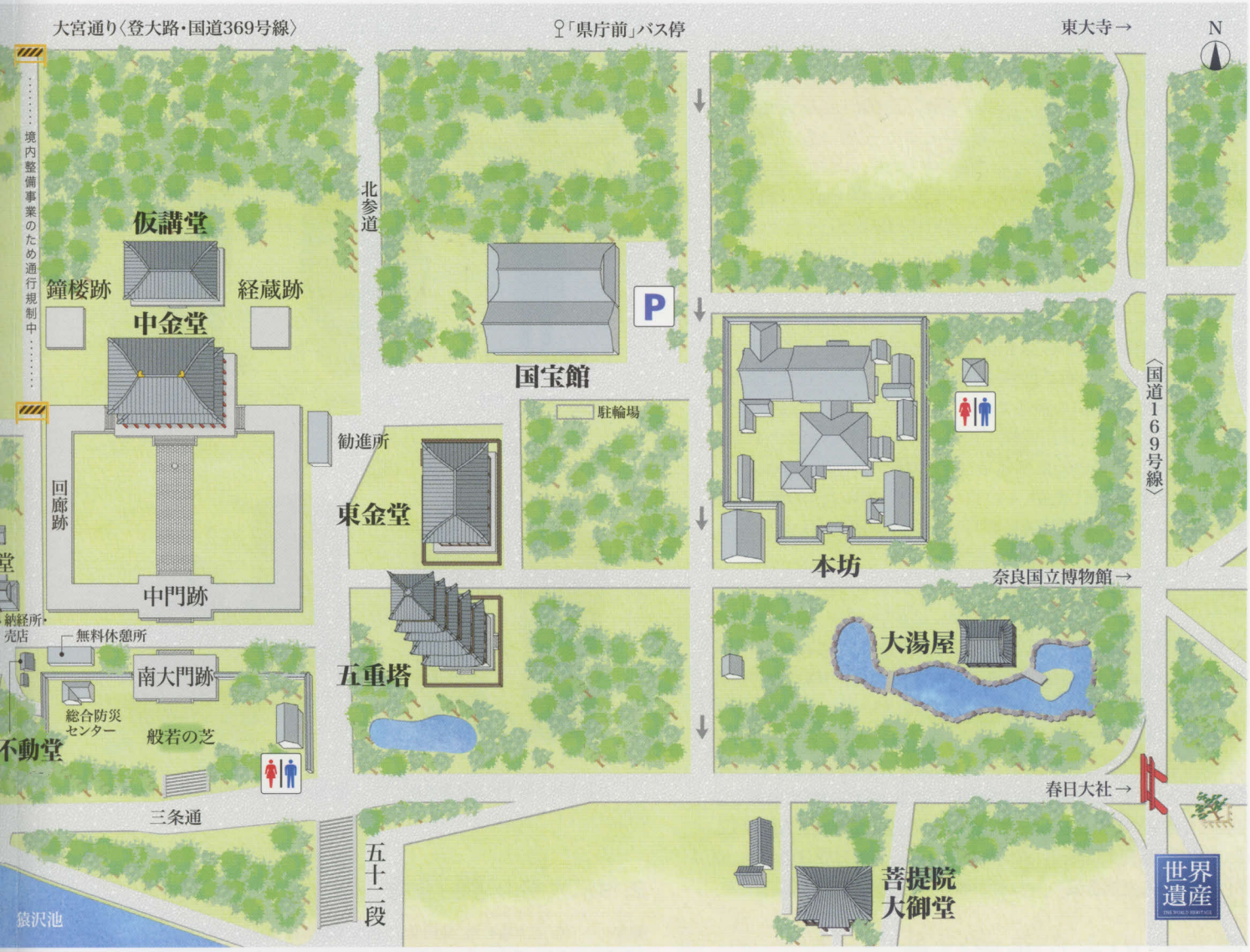
春季／秋季：特別開扉

仮講堂

老朽した中金堂(仮堂)に代わり、昭和50年(1975)、講堂跡に薬師寺旧金堂(室町時代)を移建し「仮金堂」としていました。その後、中金堂再建・落慶に伴い、今後しばらくは講堂としての役目を果たします。

●〈重文〉木造 阿弥陀如来坐像
●〈重文〉木造 薬師如来坐像
●〈重文〉木造 地蔵菩薩立像
●〈重文〉木造 木造梵天立像

隔年で11/13に慈恩会を厳修



五重塔 国宝

天平2年(730)、光明皇后が建立。5回の被災再建を経て、応永33年(1426)頃再建。塔高50.1m。奈良時代の特徴を随所に残しながら、中世的で豪快な手法が大胆な力強い塔です。初層の四方には、薬師三尊像・釈迦三尊像・阿弥陀三尊像・弥勒三尊像を安置します。

東金堂 国宝

神亀3年(726)聖武天皇が造立。創建当初は浄瑠璃光世界を表すべく、須弥壇に緑釉のタイルを敷いたと言われています。応永22年(1415)再建。

- 〈重文〉銅造 薬師如来坐像
- 〈国宝〉木造 文殊菩薩坐像
- 〈国宝〉木造 十二神将立像　他

拝観時間：9時～17時／無休

拝観料金：大人 300円　中高生 200円　小学生 100円

国宝館

僧侶が食事をする食堂の場所に、昭和34年(1959)に建てられました。興福寺の歴史を伝える仏像や絵画、典籍文書等を収蔵・安置しています。

- 〈国宝〉木造 千手観音菩薩立像
- 〈国宝〉乾漆 阿修羅立像(八部衆)
- 〈国宝〉銅造 仏頭　他

拝観時間：9時～17時／無休

拝観料金：大人 700円　中高生 600円　小学生 300円

東金堂・国宝館 連帯共通券：大人900円／中高生700円／小学生350円

大湯屋

菩提院大御堂

大湯屋 重要文化財

湯屋は奈良時代に創建されたと思われますが、文献での初見は平安時代。被災後、室町時代に再建。部材から五重塔再建と同時期と考えられます。

菩提院大御堂

十三鐘の俗称で知られ、三作石子詰めの伝承を持ちます。奈良時代の玄昉僧正を供養した一院が起源と思われ、天正8年(1580)再建。

12/31 除夜の鐘の時間帯のみ開扉

PHOTO：飛鳥園

興福寺の歴史

興福寺は、天智8年(669)に中臣(藤原)鎌足が重い病気に患った際、夫人である鏡女王が夫の回復を祈願し、釈迦三尊を安置するために造営した山階寺(山背国)を起源とします。壬申の乱(672)の後に飛鳥に移建され、地名をとって厩坂寺となり、さらに平城遷都の際、和銅3年(710)藤原不比等によって移されるとともに、「興福寺」と改号されました。天皇や皇后、また藤原氏の手によって次々に堂塔が建てられ、奈良時代には四大寺、平安時代には七大寺の一つに数えられました。特に摂関家(藤原北家)との関係が深かったために手厚く保護され、寺勢はますますさかんになります。平安時代には春日社の実権を手中におさめ、大和国を領するほどになり、また、鎌倉幕府・室町幕府は大和国に守護を置かず、興福寺がその任に当たりました。文禄4年(1595)の検地で春日社興福寺合体の知行として2万1千余石と定められ、徳川政権下においてもその面目は保たれました。明治時代はじめの神仏判然令、廃仏毀釈、寺社領上知令などにより興福寺は荒れましたが、その後は寺僧・有縁の人々の努力で復興が進展し、新たな興福寺としてその歴史を刻み続けています。

興福寺の教え

興福寺は法相教学の寺院として法灯を護持してきました。法相宗の根本教義は弥勒が説いた「あらゆる存在は唯だ自己の識(心)の現れにすぎない」とする「唯識」の思想です。この教えは4～5世紀のインドの僧である無著・世親が大成し、その後、インドから膨大な仏典を請来した中国の玄奘三蔵が、インドの護法論師の解釈をまとめて『成唯識論』を著しました。その玄奘に師事した慈恩大師基は特に唯識を学問として体系づけたことによって、法相の宗祖として尊崇されてきました。その後、淄洲大師慧沼・濮陽大師智周へと教学は受け継がれ、濮陽大師に学んだ遣唐僧の玄昉が興福寺にその教えをもたらしました。

興福寺の主な年中行事

2月節分の日	追儺会	東金堂
2月15日	涅槃会	本坊
3月5日	三蔵会	本坊
4月8日	仏生会	南円堂前
4月17日	放生会	一言観音堂
4月25日	文殊会	東金堂
5月第3金・土曜日	薪御能	南大門跡前　般若の芝
7月7日	弁才天供	三重塔
10月第1土曜日	塔影能	東金堂前庭
10月17日	大般若経転読会	南円堂
11月13日	慈恩会	仮講堂(会場は薬師寺と隔年)
12月31日	除夜の鐘	南円堂、菩提院大御堂

興福寺佛教文化講座

仏教や仏教美術など各々の分野で活躍されている専門の方々をお招きして、毎月第2土曜日午後1時から興福寺会館で開催します。受講は無料で予約不要、どなたでもご自由にお聴きいただけます。

興福寺の主な諸尊像

国宝　脱活乾漆造
八部衆立像
(阿修羅像)

国宝　銅造
仏頭

国宝　脱活乾漆造
十大弟子立像
(富楼那像)

国宝　木造
無著菩薩立像・世親菩薩立像

国宝　木造
維摩居士坐像・文殊菩薩坐像

法相宗大本山 興福寺

西国三十三所　第九番札所　南円堂 ／ 西国薬師霊場　第四番札所　東金堂
神仏霊場(奈良県)　第十六番 ／ 大和北部八十八ヶ所霊場　第六十二番　菩提院大御堂

〒630-8213　奈良市登大路町48番地　http://www.kohfukuji.com/
本坊寺務所 Tel.0742-22-7755　国宝館 Tel.0742-22-5370
南円堂納経所 Tel.0742-24-4920　東金堂 Tel.0742-22-7781
駐車場 Tel.0742-22-4096

交通アクセス　※所要時間は目安です。

- JR
  - 東京駅 ―東海道新幹線 約2時間30分― 京都駅 ―みやこ路快速 約44分― JR奈良駅 ―奈良交通バス 約7分― 興福寺
  - 新大阪駅 ― 大阪駅 ―大和路快速 約55分― JR奈良駅 ―徒歩 約15分― 興福寺
- 近鉄
  - 京都駅 ―約35分(特急)／約50分(急行)※近鉄特急をご利用の際は別途特急券が必要です。― 近鉄奈良駅 ―徒歩 約5分― 興福寺
  - 大阪難波駅 ―約40分(快速急行)― 近鉄奈良駅 ―徒歩 約5分― 興福寺
- 自動車
  - 名古屋方面 ―名阪国道― 天理IC ―約30分― 興福寺
  - 京都方面 ―京奈和自動車道― 木津IC ―約15分― 興福寺
  - 大阪方面 ―第二阪奈有料道路― 宝来ランプ ―約15分― 興福寺
- 空港バス
  - 関西国際空港 ―1日12便・約80～85分― 「近鉄奈良駅」バス停 ―徒歩 約6分― 興福寺
  - 大阪(伊丹)空港 ―1日13便・約65分― 「近鉄奈良駅」バス停 ―徒歩 約6分― 興福寺

P 駐車場：9時～17時／大型バス・マイクロバス2,500円／乗用車1,000円